

すわみつえ通信

No.329 2024年9月2日

日本共産党鴻巣市議会議員
諏訪 三津枝



連絡先 鴻巣市赤見台3-2-7
TEL: 596-9440 FAX: 507-4151
携帯: 080-5039-2785
E-mail: mi-suwa@ezweb.ne.jp
mitsue-suwa@jcom.zaq.ne.jp

WEBで

すわみつえ



身近な議員として もっと届けたい声がある 声をかたちに

大型の台風10号で被災された方々にお見舞い申し上げます

大型でゆっくりの台風10号の影響により鴻巣市においては、8月30日(金)大雨により市内道路で冠水があり、川里中央公園、鴻巣カントリークラブ周辺、境地域周辺などで一時通行止めを行いました。

台風10号は9月2日に熱帯低気圧に変わる予報ですが、不安定な天気が続くかと思えます。お気をつけてお過ごしください。

日本共産党国会議員団は29日、九州に上陸し日本列島を縦断する恐れのある台風10号の被害に伴う対策本部を田村智子委員長を本部長に立ち上げました。

鴻巣市議会9月定例会 行政報告より

子ども誰でも通園制度開始

8月1日より鴻巣市で始めた「子ども誰でも通園制度」の利用状況が報告されました。(8月16日現在)

- 登録者数: 62人(うち電子申請による登録は32人)
- 利用実績:
 - 子育て支援センター(生出塚保育所) 3人(9時間)
 - 川里ひまわり保育園子育て支援センター 2人(13時間)
 - にこにこ保育園(認可外保育施設) 1人(2時間)

新型コロナウイルス感染症定期接種

個人の重症化予防を目的に秋から冬にかけて年1回実施

- 対象者: 65歳以上の方
60歳から64歳の方(要件あり)
- 接種費用: 3300円
(予定自己負担額)

すわみつえ市議 市議会 9月19日(木) 10時頃 一般質問項目

教育行政

(1)川里地域における小中一貫教育校整備について

- ア 小中一貫教育校では小学校高学年で疲労感が強く、自己肯定感が低いという調査結果があることについての見解は イ 本市の小中一貫教育校新設に関する反対意見の研究・分析結果は
ウ 今後の地域住民との意見交換会スケジュールは エ スクールバス登下校における課題について
(ア) 子どもたちへの影響、教職員への影響は (イ) 運行事業者の事業継続に関する課題は

市民生活行政

- (1)市民生活に大きな影響を及ぼしたコミュニティバス・フラワー号減便について
ア 減便した土曜日運行を一定の期間、平日運行並みに試行運行して実態把握をすることについて
イ 上会下地域の運行を元に戻す考えは
ウ 持続可能な公共交通とするための課題と対策は

都市建設行政

- (1)埼玉県川面調節池事業について
ア 市が行う維持管理等についての県との協議は
イ 調節池における平常時の利活用は



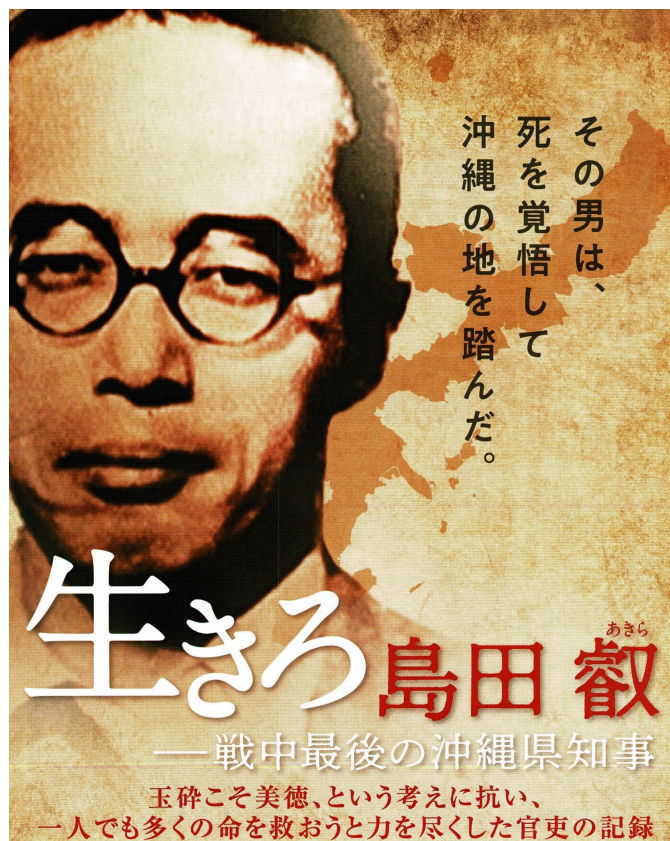
盆帰り鮎三味の宴かな
うたけ
瑠璃子

【俳句コーナー】

毎週朝 駅頭においてホットなニュース「すわみつえ通信」をお届けします。

(月)吹上駅南口 (火)北鴻巣駅東口 (水)北鴻巣駅西口 (木)吹上駅北口 (金)鴻巣駅西口

映画「生きる 島田 叡 一戦中最後の沖縄県知事」上映会



日時 2024年9月28日(土)

13:30開場 14:00開演 (118分)

会場 こうのすシネマ 多目的ホール A

●参加費 1,000円 (当日申込みも同額)

沖縄戦を生き延びた住民、軍や県の関係者、その遺族らへの取材を通じ、これまで多くを語られることのなかった島田叡という人物と、語り継ぐべき沖縄戦の全貌に迫ったこの長編ドキュメンタリーは、「米軍が最も恐れた男 その名は、カメジロー」2部作で沖縄戦後史に切り込んだ佐古忠彦監督が、あらためて沖縄の知られざる戦中史に迫った野心作だ。権力者への忖度、資料の改竄や隠蔽が常態化し、政治不信が蔓延する21世紀・令和の時代に生きる私たち日本人の眼に、後に「官僚の鑑」、「本当に民主的な人」と讃えられた島田叡という人物の生き方はどのように映るだろうか。

主催／鴻巣市日本共産党後援会 参加申込み・問合せ先／諏訪 090-9376-1408

「猫にでも出来る」どころか

「吾輩は猫である」の主人、珍野苦沙弥(ちんのくしゃみ)先生は中学校の教師だが、家では居眠りばかりしている。猫は思う。〈教師というものは実に楽なものだ。…こんなに寝ていて勤まるものなら猫にでも出来ぬ事はない〉▲苦沙弥先生は作者の夏目漱石がモデルというから“自虐”を含むとしても〈実に楽なものだ〉とは遠い昔の話というほかない。先生たちの働きぶりといったら「猫にでも出来る」どころか「猫の手も借りたい」ほど多忙を極める▲残業代の代わりに、公立学校の教員の給与に上乗せしている「教職調整額」について、月給4%相当から13%に増やす案を文部科学省がまとめた。実現すれば、ほぼ半世紀ぶりの引き上げになる▲4%では勤務の実態に見合わない不満が強まっていた。小学校の教科担任を増やしたりもするらしいが、肝心の「長時間労働」は改まるのかどうか▲教職調整額が増えても、一定額で何時間でも残業させる“定額働かせ放題”の実態が一変するわけではあるまい。固定化する恐れもある▲激務にぐったりする日もあったのだろう。かつて高校の教員だった俵万智さんに一首がある。〈トロウという字を尋ねれば「セイトのト、クロウのロウ」とわけなく言えり〉先生が徒労感を覚えずに済むように、さらに悩む余地はきつとある。

【長崎新聞 8月23日付 コラム】

《教職基本給上乗せへ》

文部科学省は8月29日、2025年度予算概算要求を発表しました。一般会計総額は24年度予算比11.5%増の5兆9530億円。公立学校教員に、残業代の代わりに基本給の4%を上乗せ支給している「教職調整額」を13%に引き上げるための経費を盛り込みました。国が教職員給与の一部を負担する義務教育費国庫負担期は、180億円増の1兆5807億円を計上。学級担任を対象に特別手当を月額3000円、校長や教頭らに対する管理職手当も月額5000～1万円増額します。国立大学への運営費交付金は、361億円増の1兆1145億円を求めました。このほか、災害が起きた際に全国から被災地に教員を派遣する枠組みの構築の費用を計上しました。

(しんぶん赤旗 8月30日付)